



Letter to JTEES 特別寄稿「日本タイ教育交流協会」活動に参加して

✕「2019年から日本タイ教育交流協会に参加させていただいています、地當と申します。まずはこの場をお借りして、コロナ禍にあってもますます精力的にご活動されています、木村先生、協会の皆様にご心から感謝申し上げます。私が日本タイ教育交流協会に参加させていただいたきっかけは、kokokaでの日タイカルチャーフェアです。食べることが大好きな我が家はタイ料理の香りに引き寄せられて突入しましたが、タイ好きが集まるだけでなく、ふらりと立ち寄った方にも広くタイを知っていただける素晴らしい機会ですね。タイ一流の文化芸術を五感で味わえる、贅沢な機会です。ぎりぎりまで開催を探られた各位のご尽力はひとかたならぬものであったことと思います。再開される日を心待ちにしております。

✕また、協会の活動で最も心に残ったのは、日タイ高校生交流事業です。来日したタイ高校生の嵐山散策に同行した時のことでした。一人の生徒さんが「植物に興味がある」と至る所で写真を撮っていました。桜の盛りでしたが彼女たちは花だけでなく、針葉樹の尖った葉、楓の可愛らしい若葉、苔が張り付く様まで珍しいようで、タンポポの綿毛などは「可愛い！」とためつめつめ、自撮りしたり綿毛を飛ばして歓声をあげたり。見ていて嬉しくなるような朗らかさでした。



✕サラブリの高校生がホームステイに来てくれた時は、最初は緊張されていたようですが、アニメの話で盛り上がりたり高校生活について教えてもらったり、等身大の姿を垣間見せてくれました。日本で見聞きする全てを食欲に吸収して帰ろうとされる姿に、応援したい気持ちでいっぱいになりました。少しでも日本の生活を体験され関心を深めていただけたのなら幸いです。

✕交流事業から帰国された北稜高校の村田さんのお話も印象的でした。タイの高校生がとても積極的で前向きだということ、ご自身もタイで感じたことを日本の高校生に伝えたいと積極的に関わっておられること。同世代のタイの生活、感性に触れ帰ってきた方の素直な報告もまた、同世代交流の良さと未来への希望を感じさせてくれるものでした。学校教育はその社会を築く人びとの基本的な価値観を身につける場であると思います。教育の交流は、まさに今を生きる文化の交流です。是非ともこの交流事業が継続されますことを願います。



✕閉塞的な今年度は、協会の活動に大いに元気付けられました。8月に催された「タイ好き集まれ・海の京都版」では、タイと同じく暑さ真っ盛りの太陽のもと、思い切り遊びました。日タイの笑顔にあふれていました。サヌックガン！何よりの交流です。

✕10月「タイを知る一日」は日タイ双方の文化発表、赤木先生の講演、本当にタイを知る一日で、ますますタイへの関心が深まりました。何より嬉しいことは、これほど濃密なタイに親しむ時間が得られただけでなく、その時間を多くのタイ好き日本好きな方と共有できたことです。

人と人との接触が断たれても、文化の交流は人と人をつなげることができる。時間を、思いを共有できる。日本タイ教育交流協会の活動に教えていただきました。これからもより多くのタイ好き日本好きが増え、集える場がありますよう、ますますのご発展をお祈り申し上げます。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。」

